

contrary, considered *Cladonia substrepsilis* to be a member of Podostelides-Helopodium and gave in his Lichens of Japan, vol. 1: 164 a post near *Cl. capitata*, *Cl. cariosa*, etc. The roundish squamules and pycnoconidangia growing upon the squamules will respond this treatment.

Cladonia substrepsilis Sandstede 第3回目の発見。表題の地衣は Sandstede によって Faurie 標本戸隠山採品 no. 803 (1898) に命名され、次で吉岡一郎氏が三河の二川駅附近で 1938 年に採集したものを筆者が Sandstede に送てこれと同定されたが、爾来全く影を潜めて居た所本年 (1970) 4 月富樫誠君が薩摩の下甑島で採集したものを筆者が同定して多年の沈黙を破った。此標本は二川産と同様泥土上に着生し発育相当によく子柄の長さ 2 cm に達して居るが子器は未熟である。少数ではあるが円形の葉体を具へ、これから発生した子柄は反覆多叉し、ササラ苔という和名をつけた。学名からいふと *Cl. strepsilis* と関係がある気がするが、形態的にも成分的にも親近ではない。唯漠然と看察したとき *Cl. strepsilis* の多裂した子柄の形に似ているともいえるので、命名者もそんな軽い気分で名をつけたものだろう。本種の分類上の位置について Sandstede は褐色果実節 sect. Ochrophaeae 閉鎖亞節 subsect. Clausae 有蓋列 ser. Thallostelides に入れ、*Cl. pityrea* (Flk.) Fr. の近所に据えたが、筆者は日本之地衣では無蓋列 Podostelides 短柄亞節 Helopodium の所属とし、*Cl. capitata*, *Cl. cariosa*, *Cl. subcariosa*, *Cl. clavulifera* などと一群のものと見て居る。今迄に筆者の看察した処では鱗葉が丸味があり欠刻なく、且粉子器が鱗葉上にあるのを見たからである。

○高等植物分布資料 (71) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (71)

○スズカケソウ *Veronicastrum villosulum* スズカケソウの生育地は、岐阜県不破郡府中村が唯一の生育地であった (本誌 28: 318, 1953)。ところが 1969 年 6 月、大垣市の稻川陽一氏からスズカケソウの自生地を発見したと知らせて下さり、同年 8 月 6 日に氏の案内で現地を見る機会をもつことができた。この詳細な報告は稻川氏が行うということだったのでいずれ書かれるとと思うがここに簡単に記しておく。現地は大垣市の北西にある池田山の東麓で、池田町の谷北付近から山道に入る入口で、標高 100 m ほどの所である。第一の産地である府中町からは池田山をはさんだ反対側で、直線距離にしてほぼ 6 キロはなれている。モウソウチクの竹林のゆるい斜面である。小道の両側 200 m ほどに多数生育している。右側は道から 100 m ほど奥までみられるが左側は 20 m ほど入るとみられなくなる。人家の裏の竹やぶで、道の両側に特に多いことから、現在は自生状態であるが、もとからのものかどうかは明らかでない。

(東京大学理学部植物学教室 山崎 敬)